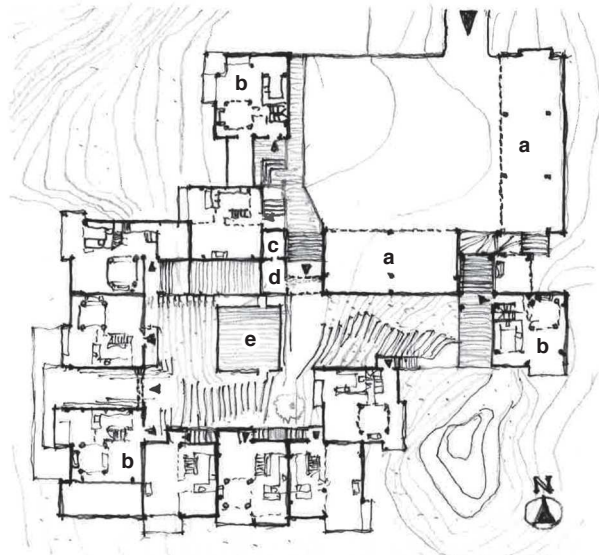


## シーランチ・コンドミニアム 1966年 チャールズ・ムーア / MLTW



北側・アプローチ側の外観 右手が太平洋



平面図 aガレージ b別荘ユニット c電気室 d洗濯室 e中庭テラス 図の左手(西側)が太平洋

### 環境合致の別荘棟と入れ子空間

戦後、世界に普及した近代建築は普遍性や標準化を重視し、地域や場所の特性に応じておらず、画一化やマンネリズムに陥り、1950年代後半以降、その乗り越えが顕在化する。ここ数回、採り上げたのはその代表的建築であるが、土着の建築への関心が高まりつつあったこの時期に完成したシーランチ・コンドミニアムもそのひとつだ。

場所はサンフランシスコ北方、約160km、太平洋の荒波が打ちつけ、海からの西風が絶えず吹き抜ける崖上の牧草地。かつては森林で覆われ、林業で栄えたが、後に牧場にされた土地だ。ある不動産業者が都市中間層の週末住宅地化を思い立ち、造園家ローレンス・ハルプリンに環境調査を依頼した。造成開発はせず、地形、植生を活かした建築計画を旨とした。最初の建築を任されたのは、チャールズ・ムーア率いる4人の建築家のグループMLTWである。

10戸の集合別荘とガレージ棟に分け、別荘棟は二つのグループが中庭を囲むように2列で地形に沿って下り、最後に結ぶが、中庭から外へ潜り抜ける隙間を設けた。外装は土地の農家の納屋にならい地場産のレッドウッドの荒引き厚板張りとし、それを内部にも現わしている。

集合別荘は、海岸の眺めが異なるように各戸に大きな出窓を設け、それを戸別の個性としている。頂部の3戸を除き、2枚の大屋根で海に向かう下り地形に沿うように葺き下し、海からの風に逆らわず、軒、庇は一切付けず、吹き上げに備えている。風から守られた中庭は地面の勾配そのままだが、一カ所、正方形の木製デッキを水平に設け、居住者の日光浴や集まりの場にしている。多くの別荘の入口は中庭側にある

戸別の室内は、片流れ屋根の野地板現わしで、内部は1辺24ft(約7.3m)の立方体に相当する1室空間である。その中に、4本の木の円柱により手摺り壁で囲まれた床を支え挙げ、そこを寝室としている。別に、1階では厨房を、2階では浴室、洗面、トイレを集約内蔵する巨大家具と呼ぶ箱型装置を建てている。ここだけ差異つけて青、赤などの原色でスパークグラフィックを施し、寝室と結ぶ。その寝室は上部から囲むようにテントを下げ閉じることができる。この寝室や箱形装置は、いわば建物の中の建物であり、一種の入れ子構造になっている。

4本の柱で囲まれた寝室下の空間には暖炉を据えて親密な領域に設え、一方、窓台がベンチにもできる大きく張り出した出窓は視界広く移り行く海岸風景を楽しめ、開放感を与える。1室内に対比的空間を巧みに配分している。

場所の諸々の条件を十分に活かし、環境に合致した、ここならではの風景にもなる建築が実現したのである。



左上 中庭上部から海側を見る 右上 中庭上部  
左下 寝室下のくつろぎスペース 下中 出窓と海岸の眺め  
右下 テントが下がる右上の寝室と箱型装置の見上